



「第3回トヨタ先端科学技術研究助成プログラム」課題募集

標記の助成について、トヨタ自動車(株)から以下のお知らせがありました。

1. **対象**：国内の大学・研究機関において「環境、エネルギー、安全」に関する分野で、独創的、先進的な萌芽段階の研究に従事している研究者および研究グループ。社会・人文科学にまたがる領域も可。
2. **助成金額**：20件程度、1件最高300万円
3. **助成時期**：1999年4月
4. **募集締切**：1998年9月30日（水）
5. **応募用紙請求・問い合わせ先**：
〒471-8572 愛知県豊田市トヨタ町1
トヨタ自動車(株)技術管理部 研究助成プログラム事務局
Tel：0565-23-6312
Fax：0565-23-5744
e-mail：yasuda@mother.ee.toyota.co.jp

編集後記：昭和52年日本初の静止気象衛星「ひまわり」が打ち上げられて以来、静止気象衛星による気象観測は20年余が過ぎました。この間、気象情報のニーズの高まりと共に気象衛星による観測も一層充実してきました。例えば、当初3時間毎に実施されていた「ひまわり」の観測が1時間毎に強化され、現在運用中の「ひまわり5号」には水蒸気チャンネル等のセンサーも搭載されるようになりました。

私が勤務する気象庁気象衛星センターにおきましては、こうして得られた画像データを有効に利用し、気象庁の業務に反映しようと様々なプロダクトが開発され、ルーチン業務として実施されています。その例として、地方官署における予報作業支援のための雲解析情報図の作成・配信、雲画像解析による台風の中心・強度の推定、数値予報の初期値としての動画による風ベクトル算出などが上げられます。そして、現在も気象衛星センターではこれらのデータをさらに有効に利用しようとする努力が図られています。

私はこのような観点から皆様からの「ひまわり画像」

を素材にした投稿を楽しみに約一年間編集委員として携わって参りました。しかし、振り返ってみますと少し残念なことに「ひまわり画像」を素材にした投稿を目にする機会が少なかつたように思います。今後はこのようなものを素材にした投稿もよろしくお願い致します。

折しも、運輸多目的衛星が来年夏に打ち上げられる予定になっております。この衛星には3.7 μ mの波長のセンサーが新たに搭載される他に、小規模利用局(SDUS)向けに低速情報電送(LRIT)を使用して雲画像などのデジタル信号が新たに配信されます。どうぞご期待下さい。

最後になりましたが私、山本は編集委員を任期満了のため退任させて頂くことになりました。編集委員として十分な活動ができませんでしたが、皆様には色々とお世話になりました。

本誌の益々の御発展をお祈りいたします。

(山本一英)